

地球惑星科学委員会（第25期・第4回）議事要旨

1. 開催日時 令和3年12月28日(火)14:00～17:10

2. 会場 遠隔会議（主催会場：東京大学）

3. 出席者、欠席者、オブザーバーについて

出席者：沖大幹、川村光、小池俊雄、三枝信子、佐竹健治、田近英一、中村卓司、西弘嗣、春山成子、堀利栄、矢野圭司、相川祐理、東久美子、阿部彩子、伊藤香織、石渡明、植松光夫、江守正多、大久保修平、小口高、大久保泰邦、大路樹生、大谷栄治、沖野郷子、奥村晃史、川口慎介、川幡穂高、掛川武、木村学、久保純子、久家慶子、小嶋智、近藤昭彦、斎藤文紀、佐々木晶、佐藤薫、篠田雅人、新永浩子、杉田文、鈴木康弘、関華奈子、高薮緑、谷口真人、高橋桂子、寶馨、張勁、佃栄吉、津田敏隆、中村正人、中島映至、中田節也、中村尚、新野宏、西山忠男、西田治文、長谷部徳子、花輪公雄、原田尚美、氷見山幸夫、平田直、日比谷紀之、福田洋一、藤井良一、古屋正人、益田晴恵、村山泰啓、森田喬、藪田ひかる、山川充夫、八木谷聡、山岡耕春、山形俊男、山岸明彦、渡辺潤一、渡邊誠一郎

欠席者：林正彦

オブザーバー：井田仁康、磯崎行雄

4. 議事次第

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 地球惑星科学委員会各分科会活動報告
- (3) 地球惑星科学分野の大型研究計画と JpGU2022 ユニオンセッションについて
- (4) その他

5. 配布資料

資料0：地球惑星科学委員会委員リスト

資料1：前回議事録

資料2-0：地球惑星科学委員会組織図

資料2-1：地球・惑星圏分科会活動報告

資料2-2：地球・人間圏分科会報告

資料2-3：地球惑星科学社会貢献分科会報告

資料2-4：地球惑星科学人材育成分科会報告

資料2-5：地球惑星科学国際連携分科会報告

資料2-6：IUGG 分科会報告

- 資料 2-7 : IUGS 分科会報告
資料 2-8 : IGU 分科会報告
資料 2-9 : SCOR 分科会報告
資料 2-10 : FE・WCRP 分科会報告
資料 3-1 : 未来の学術振興に向けた重要な学術研究の取りまとめについて (総会公表資料)
資料 3-2 : JpGU ユニオンセッション提案情報
資料 4-1 : 科学的助言機能・「提言」等の在り方の見直しについて (案) (総会公表資料)
資料 4-2 a : IYBSSD について
資料 4-2 b : 「持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD)」の決定について
資料 4-2 c : 持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 (IYBSSD2022) に関する連絡会議
参考資料 1 : 政府と日本学術会議の新たな関係構築に向けての要望書 (記者発表資料)
参考資料 2 : 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に掲げた具体的な取組事項の進捗状況 (記者発表資料 2021/10/28)
参考資料 3 : 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に掲げた具体的な取組事項の進捗状況 (記者発表資料 2021/12/24)
参考資料 4 : 「日本学術会議の最近の動き」改訂版

6. 議事内容

(1) 資料 1 に基づいて前回議事録を確認した。

(2) 地球惑星科学委員会の各分科会について 資料 2-1~10 までの資料に基づいて、地球・惑星圏分科会、地球・人間圏分科会、地球惑星科学社会貢献分科会、地球惑星科学人材育成分科会、地球惑星科学国際連携分科会、IUGG 分科会、IUGS 分科会、IGU 分科会、SCOR 分科会、FE・WCRP 分科会の各分科会委員長から活動の報告があった。また、合同分科会である地理教育分科会、自然史・古生物学分科会、HD 分科会についても活動報告があった。これに対し、地球惑星科学委員会における国際連携分科会の位置づけや国際派遣の際の連絡系統などについて質問があり、意見交換が行われた。

(3) 地球・惑星圏分科会の中村卓司委員長から、資料 3-1 に基づき、日本学術会議が今期にマスタープランの策定を行わないこと、それに代わる新たな取組を立ち上げることを報告した。そして、資料 3-2, 3 に基づき、地球惑星科学委員会としては地球惑星科学分野の大型研究計画の策定支援を続けることが重要であるとの考えにより、日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2022 年大会においてユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道 11: 地球惑星科学分野の大型研究計画」(提案代表者: 中村卓司) として大型研究計画のヒアリングを実施する予定であることの説明があった。これに対して、学術会議における今後の

重要な学術研究の取りまとめの在り方や「学術研究の骨太な取りまとめ」の検討内容についての質問があり、意見交換が行われた。最後に、学術会議の新たな取組は未定であるが、地球惑星科学分野においては JpGU ユニオンセッションで重要な大型研究計画について議論することにより、科学者コミュニティ全体を活性化する活動を継続することが重要であることが確認された。

(4) その他

- ・田近委員長から最近の日本学術会議の動向、ISC の役員選挙結果、日本学術会議のより良い役割発揮に向けた新機軸について紹介があった。

- ・沖第三部幹事から、学術会議による意思の表出および科学的助言機能・「提言」等の在り方の見直しについての報告があり、「見解」が新規設置されること、科学的助言機能の強化の方針、新たな査読体制について説明があった。これに対し、意思の表出の内容について、誰に対しての表出なのか、表出主体、提言のインパクト、政策への反映などについての質問、コメントがあり、意見交換が行われた。そして、見直し後の「見解」が従来の「提言」と同等の重みを持つことを内外に周知することが必要であるということが確認された。

- ・オブザーバーである磯崎日本地質学会長により、国際地質学会議 (IGC) の 2024 年韓国大会の開催に関するこれまでの経過が報告され、情報共有された。2024 年の開催国決定に当たり、大韓地質学会は日本地質学会に共催依頼し、依頼を受けた日本地質学会は共催に同意するとともに、10 の巡検コースを選定し韓国側に連絡した。ところが、日本側作成の巡検案内に記載した「Sea of Japan」が「East Sea (Sea of Japan)」に無断で書き換えられたほか、韓国側が日本側に相談なく独自に竹島巡検の計画を提案し、HP に掲載した。抗議の結果、日本側が提案した巡検の概要説明については HP から削除されている。この問題に対して意見交換が行われ、本件は日本の地球惑星科学コミュニティ全体に関係する問題であるとの認識を共有し、しかるべき対応を取ることとともに、地球惑星科学委員会としても今後この問題を注視していくことを確認した。

- ・佐竹副委員長から、資料 4-2 a, b, c に基づき、「持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD) 2022」の準備状況について報告があった。2022 年 6 月末からの 1 年間にわたって学術フォーラムなどが予定されている。日本学術会議に連絡会議が設置され、地球惑星科学委員会からも多くの分科会が参加している。

以上